

観光資源開発としての小樽市立病院・医療ツーリズム事業の実現可能性調査 プロジェクト代表者：伊藤 一

1. プロジェクトの目的・概要

目的:概要:内閣に発足した医療健康戦略本部ではインバウンドの医療観光の充実を政策メニューに加え医療観光推進協議会が発足し、国策となっています。小樽市内では小樽市立病院が平成26年12月に新設開院し、グローバルメディカルツーリズム事業として健康診断事業(自由診療)に絞り、観光事業との連携した事業の可能性を研究しております。

活動概要:本プロジェクトは①導入可能性のための院内調査(医療観光導入意向調査、職員満足度調査、患者満足度調査)の実施、②成功事例調査(N医科大学付属検診センター他)、③説明書・同意書の翻訳(英語・中国語)と導入体制の整備に向けて課題を洗い出し解決策を本学博士課程後期課程在学学生を中心に組織した研究会にて実施しております

構成員:小樽市立病院 (岸川和弘 医局医療部長、金子文夫 事務部次長、阿部一博 地域医療連携室次長、三田 学 事務部三田課長)
小樽商科大学 (伊藤 一 商学部教授、宋 潔 商学研究科博士後期課程2年、坂上勝也 商学研究科博士後期課程2年、徐 斌 商学研究科博士後期課程1年)
詳細は中間報告書を参照(小樽商科大学ホームページ掲載)。

2. 具体的な取組内容

毎月1回研究会を実施しMTの導入に向けての研究をおこなった。今年度の調査は中国人の業者を招き院内の内覧会と中国の患者を基にモニター調査を実施した。(詳細は中間報告書参照: (小樽商科大学ホームページ掲載))。本年度は許可された予算(20万円)の範囲で、昨年度と本年度の研究成果の開示が中心となった。地域活性学会、生活経済学会での学会報告、地域活性研究(学会誌)への投稿、査読後採択・掲載。また本研究会のコンテンツを利用し、大学の講義科目(地域活性システム論)での活用をおこなった。 成果公開:

- ・2015年6月27日 生活経済学会 学会報告「外来患者の満足度に及ぼす要因に関する実証分析ー自治体立病院の事例を中心にー」(宋・伊藤)
- ・2015年9月4日 地域活性学会 学会報告「自治体立病院における地域医療活性化の試みに関する考察」(宋・伊藤)
- ・2016年3月7日 地域活性研究 投稿(採択)「自治体立病院に於ける利用者拡大にむけての方策ー患者対応と医療観光の試みー」(宋・伊藤)
- ・2015年8月30ー9月2日 地域活性化システム論での授業資料提供

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

病院側としては本研究会の調査報告内容を基に小樽市立病院(契約者:小樽市病院事業管理者並木昭義氏)とメディカルツーリズムジャパン(株)との業務契約(「メディカルツーリズム業務委託契約書」)を締結し、内容は、小樽市を委託者としてメディカルツーリズムジャパン(株)を受託者として受託者のメディカルツーリズムで入国する顧客及び医療滞在査証で入国する顧客に対し、委託者が小樽市立病院において試験的に実施する健康診断業務に関して、業務委託契約を締結する内容である。今後中国からの検診利用者の紹介、及び関連する仲介業務(代金回収・医療通訳提供等)を実施することになった。

当該活動はマス媒体にてPRが許されない医療機関に置いて、以下のパブリシティとして報道され、病院のPRの一助となった。

HBC 2016年1月7日(木)17時台 ニュースワイド「今日ドキッ！」
北海道新聞 2015年10月27日(火)「小樽の医療観光ツアー成否探る」
北海道新聞 2015年10月31日(土)「医療ツアー実現性は？ 中国の旅行業者市立病院を視察」
北海道新聞 2016年1月26日(火)「検診 小樽の観光資源に」